

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <北海道 水産食料品 >
原材料価格の高止まりが続き、取引条件、収益状況、業界の景況は前年同期と比べて悪化している。
2. <埼玉県 麺類製造業 >
スーパー等大型小売店における夏物商品（冷し中華めん、そうめん等）の売上は堅調。中小事業者における配送員等の人手不足がみられる。
3. <富山県 豆腐製造業 >
売上は、8月上旬は順調だったが、猛暑のため中旬頃から伸びず、売れ残るようになった。人手不足は変わらず、賃金も上げられないため、悪循環。
4. <愛知県 めん類 >
原材料等の値上げが実施されても販売価格には反映できず、業況が悪化している。組合員の中では大手のメーカーが廃業し、影響が心配。
5. <和歌山県 パン・菓子製造 >
8月は、猛暑により和菓子店・洋菓子店共に客数が減り売上高の減少となった。また、電気代等のコストアップで収益環境が悪化した。
6. <岡山県 米菓 >
お盆前の忙しさが無い。暑さによる消費低迷が顕著に表れた夏だった。豪雨の影響ばかりではないと思われる。お盆休みの空港、駅は比較的好調。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >
受注はあるが、従業員の減少により生産能力が低下し、要望に応えられない状況が続いている。生産コストが上昇の一途であり、経営的には非常に厳しい状況にある。
8. <東京都 ニット製品製造業 >
連日の猛暑や台風の影響等により、衣料品の動きは芳しくない。消費マインドは実需買になっており、必要な物だけを買う傾向にあることから、衣料品を取り巻く環境は非常に厳しい。
9. <神奈川県 テントシート >
業界全体の高齢化が進んでいる。特に後継者がいないところでは廃業に近い状態が続き、その分の仕事が近隣の同業者に回って来るなどして、多少の人手不足感が出始めている。
10. <福井県 織物工業 >
原材料・電気料等のコスト上昇に加え、働き方改革の影響で人手不足感がより一層深刻な状況であり、事業継続を不安視する声が多くなっている。
11. <岐阜県 メリヤス >
就業者の高齢化が進む現状では、技術の継承は言うまでもなく、人手不足が企業存続に大ダメージを与えている。絶対条件である設備投資をあきらめる企業が発生しているのは寂しい限り。
12. <愛媛県 縫製 >
人手不足は心配だが、それに伴い現従業員の人件費もベースアップせざるを得ない。収益と経費のバランスを保つのが大変になってきている。

木材・木製品製造業

13. <北海道 一般製材 >
販売価格を見直しして頂いていることで、売上高は前年比を維持しているものの、仕入単価の上昇と生産効率の悪化から収益は昨年より落ちている。
14. <富山県 その他の木製品製造業 >
組合員の高齢化のため、死亡・廃業による退会が進んでいる。
15. <岐阜県 ひのき >
売上は例年並みであり、予測していたよりは良い結果だった。しかし、原木仕入がうまくいかず、顧客に迷惑をかけることとなった。自然災害も加わり、打開策もないまま需要期を迎えてしまう。
16. <和歌山県 建具製造 >
依然として景気回復の兆しなく厳しい状態。資金体力がない小規模零細企業は、資金繰りが不安になるため大きな受注を控える傾向にある。

17. <熊本県 一般製材業 >
原木価格上昇と必要量の確保に加え、人材確保も課題。
18. <熊本県 一般製材業 >
全体的な雰囲気は先月とほぼ変わらずの推移。しかし原木は梅雨の影響か出材不足気味であるため、価格が上昇傾向。人手不足や資材高騰等の課題もある。

紙・紙加工品製造業

19. <群馬県 紙製容器製造業 >
8月も、前月から続く猛暑の影響で全く不調。全体的に動きはあるものの軒並み数量を減らしている状態。原材料価格の値上げが徐々に浸透してきており、販売価格の低下や収益の圧迫を招いている。
20. <岐阜県 特殊紙 >
業界の景況が悪化している要因として、原材料の価格上昇・紙市場全体の規模の縮小・出荷数量の低下があげられる。
21. <愛知県 段ボール >
猛暑の影響から飲料関係等は引き続き好調。一般工業製品は輸出関連が低調気味に推移している。古紙価格は米中貿易摩擦の影響から上昇に転じており、今後の原紙価格の動向が注目される。
22. <三重県 紙器段ボール >
7月同様に、猛暑の影響で冷菓食品向けの段ボールケースの出荷が増加した。企業の夏休み・お盆休みが多い月であったが、ユーザーからの受注は好調の様子。
23. <愛媛県 紙製品 >
通常、夏枯れといってとても暇になるのだが、今年は官公庁などの発注前倒しにより忙しくなっている。しかし、秋需はその反動がくるのは必至で、心していかねばならないであろう。
24. <高知県 機械すき紙製造業 >
県内家庭紙メーカーは、それぞれに特化した商品を製造している為、稼働率にはそれほど変化はないが、原料資材・運賃・人件費の高騰により収益面で厳しい状況が続く。

印刷

25. <秋田県 印刷・同関連業印刷 >
低価格の発注、受注は依然として改善されておらず、需要の点数、量とも回復していない。来年実施される元号変更、消費税増税に関する調整事項が続いている。
26. <東京都 金属印刷業 >
他素材容器（紙、PET等）との厳しい競争、少ロット・多品種化によるコスト増、エネルギーコスト（ガス、電気）の値上げ等が課題。
27. <愛知県 印刷 >
組合員の中には、後継者がいないことからやむを得ず廃業するところがある。
28. <大阪府 シール印刷業 >
8月は低調で推移。比較的好不調なく推移していた汎用性の高いラベルの減速感が増してきた。その他食品・飲料分野でも減速感が出ている。
29. <香川県 印刷 >
燃料、電気料の単価が上昇している中、この夏の気温上昇における電力使用量増加に伴う一般管理費が増加して、経営が悪化しかねない。
30. <宮崎県 印刷・同関連業印刷 >
毎年8月は仕事の少ない時期ではあるが、今年は特に少なく思う。経費節減を理由に組合を脱退する企業もある。

化学・ゴム

31. <神奈川県 石油製品 >
7月以降の猛暑続きで、西日本を中心に豪雨の翌週は出荷量が大幅に落ち込んだが、それ以外の週の出荷は好調で、100キロリットルを大きく上回っている。猛暑がガソリンの需要を押し上げている。
32. <長野県 プラスチック製品製造業 >
成形品は前年比若干の減で推移したが、金型受注が好調で全体としては対前年を上回った。8月の受注環境は、特に大手顧客の夏季休業等による稼働日減に伴い減少の見込み。
33. <大阪府 石鹼洗剤製造業 >
洗浄剤全体では前年同月比マイナスとなったが、1月からの総計では改善傾向が見られる。既存品の価格は低下傾向になっている。
34. <和歌山県 化学工業 >
対前月比では、出荷量は全体として横ばいであったが、出荷額は減少。対前年同月比では出荷量及び出荷額ともに11%の増加。

35. < 岡山県 ゴム >
受注状況は引き続き堅調であるが、生産増に伴う人件費増、原材料費の高止まりなどが影響し収益状況は悪化。人員不足は開発関係にも及んできている。
36. < 広島県 プラスチック製品製造業 >
平成30年7月豪雨により、各企業とも直接、間接被害を受けている。また、マツダが未だ正常稼働していないため、自動車関連は売上低下に伴い軒並み減収となっている。

窯業・土石製品製造業

37. < 茨城県 焼物 >
今年の夏は特に高温だったこともあり、日中外を歩いている人が少なかった。そのため、お店やギャラリーへの来店者も少なく、売上にも繋がってこなかった。
38. < 神奈川県 砕石 >
猛暑・台風の影響で現場作業が遅れ、出荷が減少している。ダンプ運転手、工場要因の不足が目立ち始め、生産・出荷能力が下押しされるリスクに注意が必要。
39. < 香川県 石材加工 >
職人の高齢化が著しく、新たな人材も不足している。受注量が安定していないため、人材の受入方にも苦慮しているのが実情。
40. < 愛媛県 窯業・土石製品製造業 >
とにかく、かなり厳しいのは変わらない。人手不足も相変わらずであり折角の受注も断らなければならない状況。
41. < 佐賀県 陶土 >
3年前に行った価格改定による売上増加のアドバンテージは既になく、出荷数量に至っては過去最低を大きく更新する様で、かなり厳しい状況である。
42. < 大分県 コンクリート製品 >
原材料(鉄筋、骨材、セメント)、重油等の資材の値上傾向による収益の悪化及び慢性的な担い手(人材)不足が顕著となっていることを訴える組合社が増え、大きな懸念材料となってきた。

鉄鋼・金属製造業

43. < 福島県 鉄工工業 >
ここにきて材料確保が難しくなったため、材料費の値上がり等利益減少の恐れが出始めている。原料鉄を自動車産業に優先され建築用材料が減少している様子。
44. < 東京都 ダイカスト製品製造業 >
自動車向けの需要は堅調に推移しているが、人手不足による賃金の高騰や原材料の高騰により、収益悪化の組合員が出てきている。
45. < 神奈川県 工業塗装 >
大企業が大幅に利益を出し、利益を留保しているが、塗装業界では単価が抑えられ厳しい状態にある。人手不足による会社規模の縮小や客先の変更等が少しずつ進んでいる。
46. < 新潟県 鉄骨製造業 >
稼働状況は全体として繁忙状況で推移しており、加工側が手一杯で、加工先が決まらず宙に浮いている案件も出てきている。高力ボルトの入手や、とび・運搬業者の手配が困難となってきた。
47. < 大阪府 金属熱処理業 >
材料の入手が困難等の理由から熱処理で納期遅れを取り戻そうという短納期受注も増加しており、それに伴う人件費が増加。燃料費も引き続き高騰が続き、増収が直接増益に繋がらない状況も継続している。
48. < 和歌山県 金属製品製造 >
8月は、全体としては業績が好調な組合員が多くなっているが、規模・取扱製品の内容により、収益格差が大きい。

一般機器製造業

49. < 岩手県 一般機械器具製造業 >
半導体・建機・工作機械等に減速感が現れ、原材料工具等の値上げが続く。
50. < 石川県 機械工作钣金加工 >
月別の売上げ総額の推移を振り返ると、今年3月の売上高をピークに緩やかに下がってきている。懸念材料が絶えないことから、今年度後半は少々落ち込みがあるものと構えておいたほうが良さそうである。
51. < 愛知県 機械器具 >
足元の景況感が高く、生産の多忙感もあるが、収益面では下がっている。雇用の確保が難しく、効率が低下しており売上規模を維持することが精一杯。
52. < 京都府 一般機械器具製造業 >
景況感に大きな変化はなく好調を維持。大半の企業で繁忙状態が続いている。人材の確保が喫緊の課題である。

53. <大阪府 電線製造業 >
自動車関連の出荷量はここへ来て頭打ちの状態が続いているが、住宅など建設関連の荷動きは僅かに動き出している。この動きがこのまま下期への本格需要に繋がることに期待している。
54. <山口県 一般機械器具製造業 >
機械検査、機械加工関係、食肉加工、惣菜、自動車関係等全ての職種で業績は好調で、残業も多いが、職種に関係なく人員の不足が大きな課題となっている。

電気機器製造業

55. <山梨県 電気機械器具製造業 >
半導体関連の受注の落ち込みが前月より大きくなり、先行きが不透明な状況が続くと考えている。
56. <愛知県 配電盤 >
運送費が高騰し、収益を圧迫している。運送費が高いので、当方から納品を依頼しても運送業者を指定してくる悪循環のスパイラルに陥りそうだ。
57. <京都府 電機機械器具製造業 >
受注が比較的良好な状況が継続するなか、人員不足により納期対応が難しくなっている。採用難は、解決しなければならない第一義的な課題となっており今後の経営に大きな問題を残す。
58. <鳥取県 電子部品製造業 >
車載関係・医療関係に加えオリンピック関係製品（無線など）の特需生産が増加傾向にある。労働力不足は深刻化してきており、受注増加に対応できていない。
59. <広島県 電気機械器具製造業 >
平成30年7月豪雨で製品・資材・仕掛及び設備が一部浸水したため、復旧作業に追われ前月比13%減少となった。前年同月比は7%増加となった。
60. <福岡県 電気機械器具製造業 >
8月度売上高は、稼働日数の減少に伴い先月から若干減少（前年同月比でも同様）。産業用ロボット関連は、依然国内外とも好調に推移。

輸送用機器製造業

61. <茨城県 自動車部品 >
生産高は全体的に上向きであるが、企業間の格差が大きい。取引条件としては、単価の引き下げを求められる傾向が強く厳しい状況。
62. <神奈川県 船舶 >
韓国・中国の安値受注やグローバル的な需要減で厳しい対応を迫られている中、トラック輸送から船便にシフトする動きが鮮明になり、カーフェリーの新造船需要が高まってきている。
63. <愛知県 輸送用機械 >
自動車関連の生産持ち直しが続く中、猛暑や自然災害が様々な影響を及ぼし、足踏み状態が続いている。生産用機械、工作機械や運搬機械の受注は増えたが、人材不足の中小企業は増加の一途。
64. <兵庫県 輸送用機器製造業 >
新機種の販売が好調を維持し、かつ国内生産の平準化（前倒し生産）で閑散期としては好調を維持しているが、設備投資を控える動きもあり今後の動向を見守りたい。
65. <山口県 鉄道車両・同部品製造業 >
鉄道車両、半導体製造装置、産業プラント部門ともに繁忙な状況が継続中。
66. <高知県 船舶製造・修理業 >
受注面でやや一服感がある。操業度は受注残の消化等により高い水準で推移している。

その他の製造業

67. <岩手県 畳製造業 >
組合員が死亡により脱会。組合員の減少に歯止めがかからない。
68. <秋田県 曲げわっぱ >
需要は伸びているが原材料の入手が難しくなっており、生産も追いつかない状況が続いている。
69. <東京都 貴金属製品製造業 >
売上への暑さの影響は否めず、全体的に経営状況は悪かった。物販への影響は顕著。
70. <神奈川県 工業中心の複合業種 >
8月の景況は先月と同じ横這い状況。人材不足は求人を出しても相変わらず解消できず、海外就労者や廃業した企業の従業員の採用等で補い始めている。また、組合のホームページに求人情報も掲載している。

71. <石川県 プラスチック製品製造業 >

8月は客先が連続休暇を長くとる傾向が顕著になってきており販売額としては伸び悩んでいる。客先の一部では、材料の価格上昇を認めていただく様な流れもあり、今後若干収益改善は見込めそうである。

72. <香川県 漆器 >

7月の豪雨被害や、その後の連日の猛暑に続き、相次ぐ台風の上陸等の影響により個人消費は大きく落ち込み厳しい状況になっている。

《非製造業》

卸売業

73. < 埼玉県 卸売業 >
連日の猛暑・豪雨で来場者が激減。イベントを開催したが、台風により思うように客足が伸びず苦戦を強いられた。今月、2社が廃業となった。
74. < 神奈川県 料理材料卸 >
酷暑の一ヶ月であった為か、外食へと向かう消費者（特に高齢者）の動きが大変鈍かったようである。全世界的な異常気象により、食材料費が徐々に高くなってきている。
75. < 大阪府 各種商品卸売業 >
猛暑につき飲料関係は好調だが特定の製品に品薄が見られる。また青果物の一部にも猛暑の影響により品薄が見られる。
76. < 兵庫県 建設材料卸売業 >
仕入値上昇と景況悪化による売上低迷にはさまれ、販売価格の上昇がしづらい状況は、企業努力で吸収できる度を超している。
77. < 福岡県 電気機械器具卸業 >
猛暑でエアコンが売れるも、取付工事をする業者が間に合わない。
78. < 熊本県 野菜卸売業 >
野菜の品薄感が8月中旬まで続いた。単価は前年比124%と高値を維持し、取扱高は前年比120%を計上したため、資金繰り面では厳しい状況であった。

小売業

79. < 東京都 酒小売業 >
相変わらず、後継者不足、売上減による廃業によって、組合員の脱退が多い。規制緩和の影響によって、スーパー、ドラッグストア、コンビニに客が集中している。
80. < 愛知県 家電 >
7月の猛暑が続き、エアコンに販売が集中した。前年比で200%近い数字が出たものと思われ、電気店は8月のお盆までは7月から休みがない状態が続いた。
81. < 佐賀県 食料品（青果） >
8月はほぼ毎日35℃以上の日ばかりだったので、買い物の来客数も少なく、また売る野菜も満足に取り揃えることができなかつたので高値となり、とても売り難い状況が続いた。
82. < 熊本県 飲食料品小売業 >
異常気象で鮮魚・青果の入荷が例年より困難となっている。
83. < 宮崎県 たばこ販売業 >
組合員の高齢化が相変わらず進んでおり、後継者不足はいよいよ切実になってきている。また、電子タバコの伸びもコンビニ側が先行しており、組合員の出遅れ感が強い。
84. < 鹿児島県 石油販売業 >
お盆商戦後の反動で売上が伸び悩んでいるところで、原油価格の高騰で元売の仕切り価格も続いたため、小売価格の転嫁作業が厳しい状況となった。相変わらず人材不足に喘いでいる。

商店街

85. < 宮城県 仙台市 >
8月は国内観光客をはじめ外国人旅行団体も数多く見受けられたが、業種による店舗売上高の格差が大きい。また猛暑が続いた影響か、比較的物販よりも飲食関係の売上が伸びた。
86. < 山形県 山形市 >
猛暑の影響で月後半（お盆明け以降）の来客・売上が例年より厳しかった。商店街にある百貨店の好調さに支えられている状況だが、個店は厳しい経営が続いている。
87. < 千葉県 柏市 >
酷暑、台風の影響がかなりあった。来街者が日中極端に少なく感じた。午後4時過ぎからの商売と言う感じ。業種に関わらず同じ傾向であったようだ。
88. < 奈良県 県下全域 >
異例の台風来襲と猛暑によって、人々の出足は大きく削がれた。高齢化が進んだ中で、商店街への来街を促すことを躊躇させるような気候になってしまった。
89. < 和歌山県 和歌山市 >
8月は高温や台風直撃など高齢者の多い商店街には最悪の条件が続き、過去にない売上高の減少となり、厳しい経済環境であった。

90. < 徳島県 徳島市 >
徳島の祭り、阿波おどりも今年は人混みもなく低調。また異常ともいえる暑さで人の動きは更に厳しく、各々イベントをかかっているがサービス業などは動きが最悪だった。

サービス業

91. < 栃木県 給食センター >
米や野菜等の食材の値上げによりコストアップとなり、厳しい状況ではあるが、新規の得意先の開拓・新商品の開発・コストダウンにより、収益を改善する。
92. < 神奈川県 温泉旅館・ホテル >
連日の猛暑・酷暑に加え、8月上旬の台風や豪雨による被災等から、国内客の消費減退が大きく影響しているが、インバウンドが相変わらず好調で国内客の減をкаろうじてカバーしている。
93. < 静岡県 宿泊業 >
台風13号の影響で、宿泊客が減少した。食事なしの素泊まり予約が増加し、売上高の減少に影響している。また、夏の海水浴客の落ち込みも集客に影響している。
94. < 滋賀県 理容 >
夏季休暇・お盆で売上は持ち直したが、来月は反動も大きい見込み。
95. < 島根県 旅館 >
西日本豪雨により、JRの運休、高速道路の寸断により7月は大幅に宿泊客数が減少したが、8月は前年を割るものの宿泊者が伸びた。
96. < 高知県 旅館・ホテル >
7月の西日本豪雨から8月末に発生した台風20号までのキャンセル被害は、過去経験がないほどのマイナス実績を伴い、期中での挽回は非常に厳しい状況。

建設業

97. < 岩手県 土木工事業 >
手持ち工事は増加して受注残は多いが、利益は減少。人員不足（熟練技術者）や下請業者の確保難、人件費の増加が経営上の問題点。今後、材料費の値上げなどによる一層の収益悪化が懸念される。
98. < 秋田県 一般建築 >
豪雨災害復旧工事と一般公共工事の同時発注が続き、人手不足等の要因による入札不調が多くなっている。
99. < 岐阜県 室内装飾 >
ほぼ全ての内装資材メーカーが10月より20%程度の値上げを実施する模様。施工・販売業者はすぐに値上げができない状況が一定期間発生する見込みで、利益を圧迫すると予想される。
100. < 愛媛県 鐵構 >
課題は相変わらずの鋼材価格の値上がりと鋼種による入手難。また、副資材でも入手難が起きている資材がある。建設現場での人手不足もあり、現場技能者の人件費上昇も考える必要がある。
101. < 佐賀県 鉄鋼業 >
特殊鋼材の入荷が長期化しており、工場製作工程に支障が出ている。発注から納入まで通常の3倍くらい伸びている。
102. < 沖縄県 管工事業 >
景気回復の兆しは見られるものの、公共工事は年々減少。民間工事においても、受注競争の激化で適正価格割れを起し、経営圧迫の大きな要因となりそう。

運輸業

103. < 青森県 一般貨物自動車運送 >
天候不順の為、農業生産品の輸送数量が極端に減少した。又、昨年秋から燃料が毎月のように上がり経費を押し上げている。雇用不足が続き車両台数は減少傾向。
104. < 神奈川県 道路貨物 >
異常な猛暑となり飲料水や家電製品の配送が前年より3割程度増えたが、人件費とガソリン価格の上昇が収益を圧迫。業界イメージの低下で、仕事はあるが、人が全く来ない状況が続いている。
105. < 京都府 一般乗用旅客自動車運送業 >
猛暑続きの今夏、8月は例年になく忙しい夏になった。今春の運賃改定により短距離で安くなったため、涼しいタクシーでのチョイ乗り移動が多く見られた。
106. < 山口県 一般貨物自動車運送業 >
前年同月より売上は増加し、収益状況も良かった。豪雨災害で、従来貨物列車で運ばれていた荷物が、トラック輸送に回ってきているので、荷物量が増えている。
107. < 香川県 タクシー >
非常に厳しい経営状況が続いている。後継者不足から事業を譲渡している会社もある。乗務員不足が深刻化しており、配車依頼に十分対応できていない状況。

108. <長崎県 運送業 >
8月は全体的に荷動きが悪く売上が減少した。軽油もまた上昇しており、収益を悪化させている。厳しい状況が続いている。

その他の非製造業

109. <秋田県 砂利 >
ダム関連の骨材の荷動きが主で、他の公共工事での動きは鈍い。路盤材等の骨材はリサイクル材が主流であるが、材料不足で今後はバージン材の使用となる見通し。
110. <神奈川県 歯科技工 >
各事業所が猛暑対策の為、長めに夏休みを取り、粗利益は前年度と比べ6.4%減少した。歯科界全体の急速なデジタル化に対応しなければ利益を確保することが出来ない。
111. <神奈川県 不動産 >
建築コストの上昇等により新築戸建やマンションの価格が高止まり。中古住宅となった時に売却希望価格と市場価格とのギャップに仲介業者として苦勞するのではないかと今から不安になる。
112. <新潟県 砂利採取 >
公共工事の発注が少なめで推移しており、秋以降の発注に期待している。
113. <兵庫県 社会福祉・介護事業 >
常に職員の確保が困難な状況が続いている。特に介護職員に関しては、現状の職員が高齢になっており体力的な問題で退職をされその穴埋めが完全にできていない。
114. <岡山県 信用組合 >
7月豪雨の影響で直接・間接被害を受けた事業者様は減収傾向であり、資金繰りにも影響が出始めている。対象先については随時面談を行い、緊急融資等にて対応している。